

中部支社 NAGOYA
〒460-0013
名古屋市中区上三之河1丁目4番12号
上野ビルディング
TEL (052) 331-3371 FAX (052) 331-3374

中日本ネットワーク

東海・信越・北陸

産業新聞

Japan Metal Bulletin

注目集める環境機械メーカー

エムダイヤの事業展開

国内資源循環体制推進に寄与

「沿革から。1979年に父の森誠一(現相談役)が油圧機械の修理工場を創業したのが始まり。そして90年頃に当時社会問題となっていた廃タイヤを処理できないかという相談を受けたのが契機となり、現在の主力事業である環境機械に軸足を移していった。当社の主力製品は『コセパレ分離・破砕機』の原型となる破砕機は99年に完成した。その後05年に私自身が社長となり環境機械メーカー、エムダイヤとして再出発した。社名には『小粒でもキラリとした会社』という想いを込めた。――主力事業の概要を。



森 弘吉社長

「工場には最新の工作機械を導入し、材料の鋼材を購入して溶断、溶接、加工、塗装などを全て自社内で行っている。材料から一貫生産することで、お客様の要望にお応えする。エムダイヤは、最新の工作機械を導入し、材料の鋼材を購入して溶断、溶接、加工、塗装などを全て自社内で行っている。材料から一貫生産することで、お客様の要望にお応えする。」

顧客ニーズ的確に反映

「事業の柱は3つある。一つは売上高の6〜7割を占めるリサイクル機械の製造・販売事業だが、当社の事業の関連から排出される廃プラスチックなどのリサイクル資源を海外に輸出する事業も行っている。最後に創業当時から続く各種産業機械や工作機械の点検・修理・改造事業だ。3つの事業全てが環境に関連しており、将来的には総合環境ソリューションを提供する。――リサイクル機械事業の製品紹介や特長・強み。」

「エコセパレ分離・破砕機は、タイヤや光ファイバーをはじめとする異素材混合のリサイクル資源について、金属やゴム、樹脂などを高い精度で破砕・分離して後工程で選別するのが特長。独自の刃物構造による剥離技術で開発した。日、米、韓の4カ国で特許を取得しているほか商標登録もしている。素材にケブラー繊維を使う光ファイバーなどの難切断材も大量切断できる万能型切断機『エコカッター』シリーズなども主力製品で、これらの開発製品は特許取得や商標登録など知財戦略を進めている。」

「最大の特長は鋼材からの一貫生産体制にある。通りの機械を盛り込むことができる。実際に工場を訪れ製造現場を見学することで、当社の技術力を評価してくれるお客様が多い。自動車、家電、電線、製錬などの大手メーカー系列のリサイクル会社や大手家電量販店グループとの直接取引が全体の7〜8割を占めることも特長だ。商社やエン지니어リング会社は介在しないため、お客様のニーズを適切・的確に反映でき開発速度も速くなる。」

「機械メーカーが資源リサイクルの輸出事業を手掛けるのは珍しい。――主力事業であるリサイクル機械の製造・販売を通じて、当社しかできないようなリサイクル事業を展開していきたい。今は3、4年前に始めた廃プラスチックの輸出が

中国の廃棄物輸入規制強化に揺れる日本の資源リサイクル業界。パーセル条約や廃棄物処理法など日本国内の関連法制の見直しもあり、国内における資源循環体制の推進に寄与する環境リサイクル設備への注目度が高まっている。富山県滑川市の環境機械メーカー、エムダイヤの森弘吉社長に主力製品の開発動向や今後の事業展開などを聞いた。

リサイクル市場 東南アジアに期待

「日本の市場は確実に縮小していく。一方で海外、特に東南アジア市場は成長が期待できる。――当社も海外展開に注力している。電子基板上の実装部品を削り取ることで、銅やアルミニウム、貴金属、レアメタルなどを回収しやすくなる基板剥離機などの需要もこれから伸びると考えている。」(増田 正則)

「リサイクルの将来性について。――日本の市場は確実に縮小していく。一方で海外、特に東南アジア市場は成長が期待できる。――当社も海外展開に注力している。電子基板上の実装部品を削り取ることで、銅やアルミニウム、貴金属、レアメタルなどを回収しやすくなる基板剥離機などの需要もこれから伸びると考えている。」(増田 正則)

「以前は果糖ポリエチレンや銅やアルミが混ざった異種混合のリサイクル資源も中国に輸出していた。総合リサイクル企業をターゲットにしている。――中国の製品規制の影響で日本の破砕機的需求が高まっている。今後の製品開発の方向性は、――エコカッターシリーズは新機種を順次追加しているが、従来の油圧方式を採用した最新機種は、従来の油圧方式よりも省エネ、省スペース化を実現している。――中国の製品規制の影響で日本の破砕機的需求が高まっている。今後の製品開発の方向性は、――エコカッターシリーズは新機種を順次追加しているが、従来の油圧方式を採用した最新機種は、従来の油圧方式よりも省エネ、省スペース化を実現している。」